

1 市域の変遷

(教育委員会文化財保護課)

厚木市は、相模川中流西岸に位置し、西部に広がる丹沢山地、洪積台地及び沖積平野の「三段構えの地相」と呼ばれる肥沃な地域にあって、約9千年前の縄文時代早期には人々が定住した。弥生時代以降市域各所に集落が形成され、4～7世紀には有力者の墓である古墳も築造された。やがて律令体制に組み込まれ、国郡制のもと、市域は愛甲郡・大住郡に属した。その後武士が台頭し、市域にも愛甲氏・本間氏・荻野氏などの武士団が活躍し、愛甲荘・毛利荘などの荘園も成立した。鎌倉時代にも幕府の中核で活躍する愛甲季隆や毛利季光、本間一族などの愛甲武士の名が歴史書などにみえる。また、仏教が伝播、浸透し、寺院が各地に建造された。

「あつぎ」の地名が資料に見えるのは、南北朝時代の建武5年(1338)、臨済宗の僧夢窓疎石から足利尊氏の執事高師直宛ての書状に「相州厚木郷」とあるのが初見である。

「あつぎ」の地名の由来は、木材の集散地を意味するアツメギ(集め木)から変化したという説や、アイヌ語のヤオロケシ(寄木)から付けられたとも言われているが、定説とはなっていない。

北条5代の支配を受けた戦国時代を経て、天正18年(1590)徳川家康の関東入国後、江戸時代の市域には、幕府直轄領のほか旗本領や大名領として細分化された支配体制が敷かれた。江戸時代の厚木村は、相模川舟運の中継地や大山への街道の宿場町・商人町として発達し、繁栄を極めていた。天保2年(1831)に来遊した渡辺崋山は、厚木の盛んな様子は都と異ならないと感嘆した。

明治維新には、幕府領が韮山県、旗本領は神奈川県に入り、明治2年には一部が荻野山中藩領に編入された。明治4年7月、廃藩置県によって、荻野山中藩・烏山藩はそのまま県となり、荻野山中陣屋にも県庁が置かれた。同年11月には市域は足柄県、明治9年には神奈川県へと編入された。明治22年には市町村合併によって、江戸時代の36か村から、厚木町、南毛利村など1町12か村にまとまった。

大正12年の関東大震災では市域南部を中心に大きな被害を受けたが、復旧、復興めざましく、昭和2年には小田急線の開通により相模厚木駅(昭和19年、本厚木駅へ改称)が開業し、養蚕や鮎漁などを主要な産業として発達した。

昭和30年2月1日、厚木町など1町4か村が合併し厚木市となった。その後同年7月、昭和31年9月に残り3か村を編入し現在に至る。昭和43年東名高速道路厚木インターチェンジの開設は、首都圏南西部における陸上交通の要衝として、本市の産業経済の発展に画期的な影響を及ぼした。

昭和50年代後半からは、森の里を中心とした研究開発型企業の立地や業務・サービスなどの産業も集積され、多機能を有する都市として成長し、平成27年2月1日に市制60周年を迎えた。

現在、厚木市は「自分らしさ輝く 希望と幸せあふれる 元気なまち あつぎ」を将来都市像と定め、一人一人が多様性を認め合いながら安心して暮らせ、自然や文化、産業などの魅力ある資源を最大限にいかし、将来にわたって活気にあふれたまちの実現を目指している。

年 月 日	事 項	面 積	人 口
昭和30年2月1日	厚木町、南毛利村、睦合村、小鮎村、玉川村にて合併市制施行	56.50 ㎢	31,295 人
昭和30年7月8日	相川村、依知村を編入	74.90 ㎢	39,409 人
昭和31年9月30日	荻野村を編入	92.69 ㎢	44,652 人
昭和35年10月1日	国勢調査、国土地理院調査による	92.84 ㎢	46,239 人
昭和46年9月1日	愛川町との境界を変更	92.86 ㎢	88,330 人
昭和50年5月1日	伊勢原市との境界を変更	92.86 ㎢	106,923 人
平成2年9月1日	国土地理院調査による	93.83 ㎢	196,487 人
平成26年10月1日	国土地理院調査による	93.84 ㎢	225,166 人

2 位置及び地勢

(都市計画課)

方位	経度	地名	方位	緯度	地名
極東	東経 139° 22′ 49″	下依知	極北	北緯 35° 31′ 40″	上依知
極西	東経 139° 13′ 41″	七沢	極南	北緯 35° 23′ 37″	戸田

(注) 緯度・経度は、世界測地系（日・測地系2000）

地名	東経	北緯	海拔
市庁舎（中町3-17-17）	139° 21′ 45″	35° 26′ 35″	20.3m

(注) 緯度・経度は、世界測地系（日・測地系2000）

方向	東西	南北
距離（km）	13.76	14.71

(企画政策課)

厚木市は、神奈川県中央に位置し、西は大山を境に秦野市、西から北にかけて愛甲郡清川村、愛川町に、北から東にかけては相模川をはさみ相模原市、座間市、海老名市、高座郡寒川町に、また南は平塚市、伊勢原市と6市2町1村に接している。

地勢は西北から東南に緩やかに傾斜し、西部及び西北部は山岳地帯で複数の小山脈が南北に走っている。特に、西部においては大山がそびえ、丹沢山塊へと連なっている。

市の東部は、遠く富士五湖の一つである山中湖に源を発する相模川の清流が南北に貫通し、これに併流する中津川と小鮎川の流域に平野が開けている。東西13.76キロメートル、南北14.71キロメートルの扇形に近い地形で、面積93.84平方キロメートルを有している。

市街地は、三河川の合流点の右岸に位置し、市街地を東西に横切る小田急電鉄を利用し、新宿まで約45分、また横浜までは小田急電鉄及び相模鉄道を利用し約35分の距離にある。

また、東名高速道路や小田原厚木道路を始め、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、新東名高速道路といった広域的な幹線道路網が整備されるとともに、市域内を国道246号、129号、412号が貫通しているなど、交通の要衝としての地理的条件にも恵まれている。

3 主要山塊及び地高

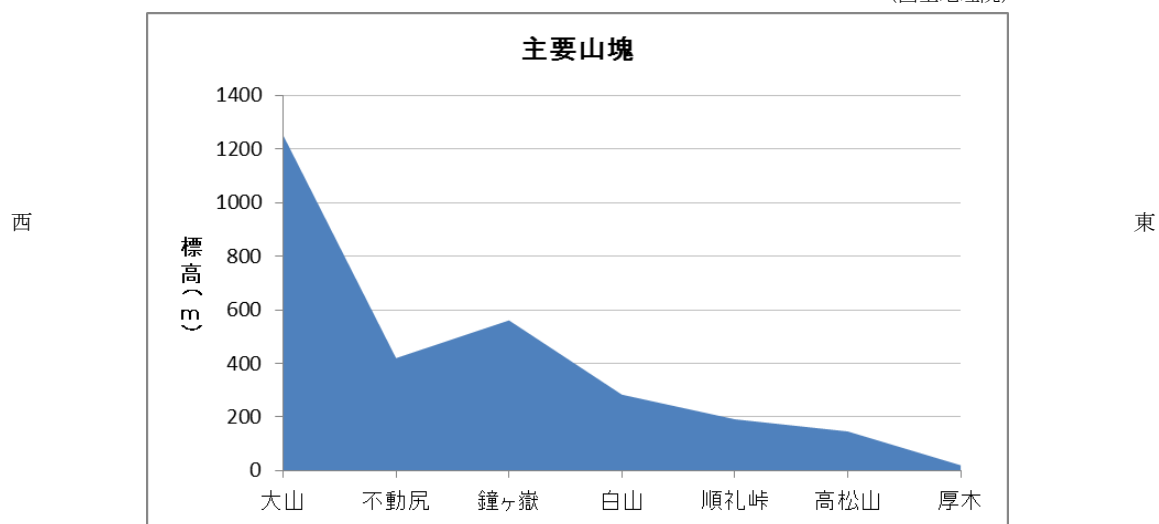
主要山塊

(国土地理院)

地名 (西～東)	大山	不動尻	鐘ヶ嶽	白山	順礼峠	高松山	厚木
標高 (m)	1252	420	561	283.8	191.8	146.4	20

(注) 国土地理院ホームページ参照

(国土地理院)

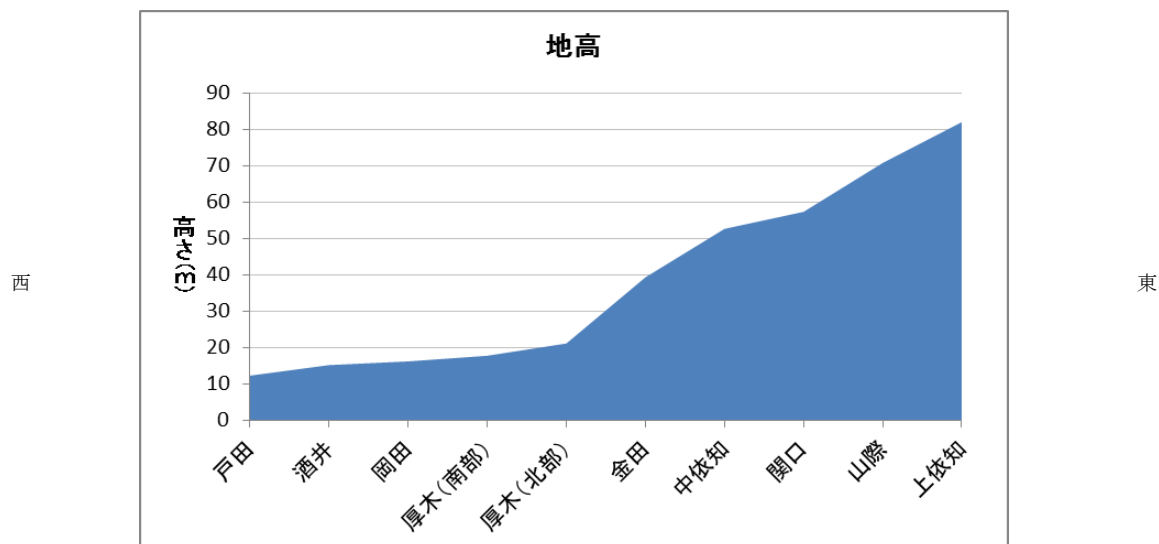


地高

(単位：m)

(下水道総務課)

地名 (南～北)	調査地点	所在地	地高
戸田	戸田小学校付近	戸田545	12.223
酒井	酒井老人憩の家付近	酒井2142-1	15.126
岡田	厚木アクスト付近	岡田3050	16.133
厚木南	厚木第二小学校付近	旭町5-38-1	17.706
厚木北	厚木北公民館付近	元町9-4	21.070
金田	金田老人憩の家付近	金田172-1 (国道129号側：33.624)	39.289
中依知	国道129号線中依知交差点付近	中依知85-1付近	52.639
関口	関口老人憩の家付近	関口501-1 (国道129号側：58.453)	57.326
山際	旧依知分署付近	山際285-1	70.790
上依知	依知北公民館付近	上依知1313-1	82.034



4 地区別面積

(単位 km ²)		(令和5年4月現在) (都市計画課)								
計	厚木	依知	睦合	荻野	小鮎	玉川	南毛利	相川	緑ヶ丘	森の里
93.84	3.597	13.955	10.195	17.273	13.376	16.206	10.377	6.316	0.518	2.027

(注) 厚木市全体の面積は、令和4年4月1日の国土地理院による全国都道府県市区町村別面積調の数値

5 地目別土地利用状況

(単位 ha)		(令和5年4月現在) (都市計画課)					
都市計画区域	計	田	畑	宅地	山林	河川・水面 ・水路	荒地・海浜 ・河川敷
計	9,384.0	529.0	767.5	4,682.3	2,586.7	171.9	646.6
市街化区域	3,201.0	5.6	95.9	2,888.8	136.5	5.5	40.7
市街化調整区域	6,183.0	523.4	671.6	1,793.5	2,450.2	166.4	605.9

(注) 1 内訳出典：平成27年度都市計画基礎調査

2 都市計画区域の面積は、令和元年度に都市計画決定した数値を基にしているため、内訳の合計とは一致しません。

6 用途地域別面積

(令和5年4月現在) (都市計画課)		
種別	面積 (ha)	構成割合 (%)
計	約3221	100.0
第一種低層住居専用地域	約404	12.6
第一種中高層住居専用地域	約555	17.2
第二種中高層住居専用地域	約41	1.3
第一種住居地域	約734	22.8
第二種住居地域	約188	5.8
準住居地域	約44	1.4
近隣商業地域	約71	2.2
商業地域	約103	3.2
準工業地域	約513	15.9
工業地域	約399	12.4
工業専用地域	約169	5.2

7 主要河川

(令和5年4月現在) (河川ふれあい課)			
河川	県下流路総延長 (km)	市内流路総延長 (km)	県内流域面積 (km ²)
相模川水系	131.7	63.3	944.43
相模川	55.6	16.4	672.97
玉川	8.0	8.0	38.30
小鮎川	13.8	10.0	50.01
荻野川	8.9	8.9	18.77
中津川	32.8	7.4	143.42
細田川	1.0	1.0	2.40
恩曾川	7.2	7.2	12.49
山際川	2.0	2.0	4.21
善明川	2.4	2.4	1.86

8 気象の概況（その１）

（危機管理課）

年次・月別	気温（℃）				
	平均	最高気温	当該日	最低気温	当該日
令和元年	16.1	36.3	9月9日	-2.1	2月2日
2年	16.6	37.0	8月16日	-2.0	2月7日
3年	16.6	36.4	8月10日	-3.6	1月10日
4年	16.4	35.8	6月29日	-3.5	2月6日
5年	17.5	37.0	7月17日	-4.8	1月26日
1月	5.4	15.1	1月13日	-4.8	1月26日
2月	7.2	19.8	2月19日	-1.5	2月16日
3月	12.9	24.2	3月24日	4.1	2月3日
4月	16.2	25.0	4月19日	4.7	4月9日
5月	18.9	31.4	5月18日	10.4	5月9日
6月	23.2	33.6	6月29日	14.7	6月1日
7月	28.4	37.0	7月17日	20.8	7月2日
8月	28.9	35.7	8月4日	22.0	8月2日
9月	26.9	34.7	9月28日	19.3	9月24日
10月	18.8	28.6	10月1日	9.4	10月22日
11月	14.2	27.7	11月7日	3.7	11月14日
12月	9.2	24.1	11月16日	-1.5	12月23日

気象の概況（その２）

（危機管理課）

年次・月別	風			降雨量（mm）		
	最大風速(m/s)	風向	当該日	総量	最大降雨量	降雨日
令和元年	32.1	北	9月9日	1,941.5	357.5	10月12日
2年	19.8	北	3月16日	1,579.0	122.0	4月18日
3年	20.5	西南西	2月17日	2,116.0	183.5	9月18日
4年	21.8	北西	2月21日	1,601.0	84.0	7月15日
5年	19.2	南南西	11月7日	1,557.5	177.0	6月2日
1月	14.6	北	1月24日	8.0	4.5	1月16日
2月	15.0	北	2月21日	44.5	34.5	2月10日
3月	16.2	北北東	3月2日	166.5	31.0	3月23日
4月	16.6	南	4月7日	109.0	36.0	4月26日
5月	17.4	南南西	5月6日	176.0	36.5	5月7日
6月	18.9	南	6月2日	369.5	177.0	6月2日
7月	14.1	南南西	7月8日	44.0	29.5	7月1日
8月	12.7	南南西	8月3日	198.5	44.5	8月22日
9月	15.5	北北東	9月8日	197.0	59.0	9月22日
10月	13.5	南	10月20日	152.0	51.0	10月4日
11月	19.2	南南西	11月7日	61.0	45.5	11月17日
12月	17.4	南	12月15日	31.5	25.5	12月12日